

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 辭 令

○昭和十八年七月七日

海軍大尉 岡 部 助

敘正七位

海軍中尉 曾我部 一 一

敘從七位

○昭和十八年七月八日

海軍中尉 井手 田太郎

敘從七位

○昭和十八年七月十四日

海軍主計大尉 龜山 浩吉

(各通)

同 眞壁 俊吉

敘正七位

○昭和十八年七月十五日

海軍中將 後藤 英次

敘正四位

昭和十八年八月十三日 (金)
海軍大臣官房

(各通)

海軍大佐 西海 賢治

同 関本 織之助

海軍教授 大谷 小助

海軍技師 石川 半七

敘從四位

海軍技術大佐 成瀬 正二

同 池谷 増太

海軍法務大佐 岡村 賛二

敘正五位

海軍中佐 池端 鉄郎

同 根岸 實

同 藤村 正亮

同 寺崎 隆治

同 渡名喜 守定

同 谷 井 保

同 杉 藤 馬

同 岡部 三四二

海軍公報 (部内限) 號外

海軍中佐 寺島昌善
 同 柴田文三
 同 天野盛高
 同 木田達彦
 同 室田勇次郎
 同 江見哲四郎
 同 柚木重徳
 同 井上憲一
 同 瀬戸喜久太
 同 中村健夫
 同 松木通世
 同 石原宇市
 同 鈴木未七
 同 今里義光
 同 川崎松平
 同 齋藤忠康
 同 新谷喜一
 同 吉田正義
 同 寺井邦三
 同 林田如虎
 同 堀之内美義

島崎繁一
 同 福島耕次郎
 同 大島一太郎
 同 高崎能彦
 同 岡三知夫
 同 齋藤彌吉
 同 土手義勝
 同 塚本壽雄
 同 植村正夫
 同 浮田信家
 同 渡邊薫雄
 同 前川新一郎
 同 小山貞
 同 近藤一聲
 同 眞田雄二
 同 山口肇
 同 宮田嘉信
 同 藤田浩
 同 高瀬五郎
 同 三井三郎
 同 石坂竹雄

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
能村次郎	栗野原仁志	志和彪	殿塚謹三	岡村於菟彦	日高震作	島田英治	岡林子郎	三井再男	内堀與四郎	内田耕三	人見豊治	堀内豊秋	藤田基春	岡村基春	仙波繁雄	大野格	堀武雄	内田定五郎	増田正吾	野崎虎雄

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
阿部徳馬	中杉清治	中川壽雄	江坂彌巖	岡垣巖	宇垣環	佐多直大	松村寛治	下田久夫	三田國雄	吉川潔	竹大孝志	有近六次	大迫東	北野互	揚田清猪	堀義房	清水谷武	隈部傳	宮雄次郎	吉元家彦

(各通)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍中佐	
小島重吉	乘原陸美	蘆田部一	中川敏行	江藤俊春	尾崎竹夫	伊藤利作	林馬時吉	有野寛二	矢野維顯	勝原忠幸	中垣義雄	牧内盛雄	深山見俊	中山一郎	奥村三郎	田代格	三井資	福田太郎	橋本卯六	飛田健三郎

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
那須和	板倉武	多田初	石田睦	福田洋	福田一郎	村角安三	村山愛七	東嶋嘉一	中根元治郎	宮下省吾	河野不	藤野敏	遠藤輝	林我武	曾間清	本道友	大野越	惣野兵	松井登	田中千	渡邊次郎

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
植松八十五郎	藤野清秀	高田敏之	上野春清	八島春清	櫻井俊三	中屋英一	深川總兵衛	江川憲治	宮田正巳	國末辰志	清水義喬	中村國盛	三枝七五三	佐藤六郎	山本良材	上田俊次	鈴木眞	跡部保	的場成浩	迫田季春
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍主計中佐	同	同	同	同	海軍軍醫中佐	同	同	同	同
戸井常市	柳堀精作	佐藤哲秀	猪股龍雄	笈本富三	保田繁吉	深町壯男	南了	山田涉	塩見秀次郎	白石孝繁	出本鹿之助	佐伯尙	石田敬基	種子田庸夫	藤井茂雄	渡邊格	名取顯喜	金子謙二	中村泉三	天野五一

五

倣從五位		倣正六位	
海軍主計中佐	薄井 正藏	同	阿賀谷又二郎
同	中嶋 仁三良	海軍大尉	志賀 三男
同	清氷 誠男	海軍大尉	四元 壯一
同	今里 格	同	小川 和吉
同	未廣 良三	同	麥島 貞成
同	橋本 康平	同	照沼 國
同	新井 克己	同	富山 保
同	矢野 兼武	同	橋本 幸暉
海軍技術中佐	本多 政徳	同	前田 孫太郎
同	玉崎 坦	同	福山 繁治
同	喜安 貞雄	同	河野 恒一
同	若林 幸二	同	青木 宮二
同	秋本 光正	同	落合 照吉
同	高田 久三郎	同	長谷川 平一
同	横山 常市	同	藤井 岩太
同	伊達 勝一	同	前田 興七
海軍少佐	爲國 二郎	同	遠藤 喜三郎
同	伊藤 賢太郎	同	片山 平吉
海軍軍醫少佐	佐藤 重人	同	久保田 博輔
海軍主計少佐	森田 正男	同	國光 熊三郎

1016

同	江藤 供	同	海軍監獄看守長	出尼 文作			
同	守永 政一	同	海軍書記	仁科 誠三郎			
同	篠原 榮太	同	海軍中尉	中村 譽一			
同	梅津 富吉	同	海軍兵曹長	上田 友一			
同	今上 卯作	同	海軍書記	矢田 邊光造			
同	大友 五郎	同	同	久間 金造			
同	滿田 穰	同	同	平本 龜一			
同	島田 清熊	同	海軍錄事	上田 彝夫			
同	永松 泰	同	海軍監獄看守長	大津右馬之允			
同	小宮 宗一	同	同	荒瀬 幸保			
同	原田 辰彌	同	海軍少尉	各務 武男			
同	福田 稚	同	同	佐藤 盈智			
海軍衛生大尉	安藤 辰助	(各通)					
海軍主計大尉	辻 信太郎	同					
同	土屋 弘三郎	同					
同	濱 金次郎	同					
同	同	同					
海軍大尉	田村 廣光	同					
同	梅澤 明	同					
海軍主計大尉	新井 與一	同					
海軍中尉	竹内 嘉平	同					
		同					

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百六十六號

昭和十八年八月十四日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房備第二〇六號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十三日

海 軍 大 臣

表中第三十六海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任
四人判任」ヲ「専任 十五人判任」ニ改ム
「四人雇員」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナ
リ(昭和十七年十月六日本欄)

○ 通 牒

恩第二一〇號

昭和十八年八月十四日

海軍省人事局長
海軍省醫務局長

各 應 長 殿

公務罹病證明書ニ關スル件通牒

昭和十七年五月二日附恩第九二號ヲ以テ通牒ノ首題ノ
件中第二號ヲ左記ノ通改メ公務罹病者名簿ヲ別紙ノ通
リ改定致候

記

二 前號以外ノ者ニ對シテハ毎月頭ニ前月罹病者ヲ取
纏メ別紙書式ノ公務罹病者名簿ヲ作成シ履歷書正本
ヲ海軍省人事局ニ於テ保管スル者(特務士官ヲ除
ク)ニ在リテハ海軍省人事局長ニ、海軍人事部長ニ於
テ保管スルモノ及特務士官ニ在リテハ在籍鎮守府ノ
海軍人事部長ニ送付ノコト

(別紙添)

(参照) 昭和十七年恩第九二號ハ海軍諸例則卷二、三三六ノ二七
頁ニアリ

○ 辭 令

海軍公報(部内限) 第四千四百六十六號

昭和十八年八月十四日

八五五

1018

別格官幣社靖國神社權官司 高原 正作
海軍運輸本部附ヲ命ス(海軍省)

防備關係調査研究委員會第三分科會委員ヲ命ス
海軍中佐 目黒 孝清

恩賜研學資金受賞者銓衡常置委員ヲ命ス
同 山上 實

(各通)
同 山上 實

海軍用語調査委員會委員ヲ命ス
海軍少佐 武市 義雄

海軍武功調査委員ヲ命ス(以上同)
同 一ノ瀬 光清

軍令部出仕兼部員海軍大佐 藤井 茂
第一部勤務ヲ命ス(軍令部)

海軍大佐 藤井 茂
參謀部第一部勤務ヲ命ス(大本營海軍部)

海軍大佐 林 孝善
第二課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)

海軍中佐 板垣 金信
第一課兼第二課勤務ヲ命ス(同)

(各通) 同 宮下 省吾
海軍機關兵曹長 安藤 清治

第一課勤務ヲ命ス(同)
海軍中佐 阿部 茂

第三課勤務ヲ命ス
海軍主計少佐 阿比留 幸助

第三課勤務ヲ命ス(海軍省兵備局)

○ 雜 款

○普通軍事教育圖書
昭和十八年六、七月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ
(海軍文庫)

圖 書 名	標 記 番 號	類 別
隅田川仰ぐ御蹟の由來	海軍省教普一七六二號	備 品
海戰法規ニ關スル諸問題	海軍省教普一三三五號	備 品
淨罐劑及罐水試驗器竝ニ 試製燐酸定量器取扱法	海軍省教普二〇六號	消 耗 品
標準大東亞分圖	海軍省教普一七五八號	消 耗 品
ソロモン群島珊瑚海精密圖	海軍省教普一七六〇號	消 耗 品

北太平洋全圖

海軍省教普
第一七六一號
消耗品

若宮艦裝具事務所ハ八月十日撤去セリ

○司令驅逐艦變更
第二十二驅逐隊司令ハ七月八日司令驅逐艦ヲ阜月ニ變更セリ

○入院俸賞與支給區分早見器賞費領布ニ關スル件照會
義ニ領布致候首題早見器ハ各部ノ要望多數ニ付目下追加製作致居候條要望ノ向ハ左記ニ依リ至急申込相成度

記

一 賞 費 壹圓貳拾五錢

一 送 料 拾五錢 (一個)
内地 艦船其ノ他

一 代金拂込先 横須賀第一海兵團主計長

一 雜 件 前金ノコト、シ郵送ヲ要スルモノハ
申込書ニ必ず郵送先ヲ附記セラレ度
(横須賀第一海兵團主計長)

○事務所移轉

一 東京海軍監督官事務所ハ八月十五日東京都芝區新橋七丁目十二番池(舊東京美術會館、都電御成門停留所下車)ニ移轉ス

電話芝 自四八五〇番
至四八六〇番

○事務所撤去

○訂正 済
八月三日附公報(部内限)辭令欄八一八頁上段二一行目「竹内秀太郎」ノ發令月日「八月二日」ハ「七月二十日」ニ訂正

○正誤 誤
八月七日附公報(部内限)號外四頁上段「昭和十七年二月二十日」ハ「昭和十八年二月二十日」ノ誤

海軍公報(部内限)第四千四百六十六號、昭和十八年八月十四日

八五七

第 (別紙) 號

年 月 日

所

轄

長

官印

軍醫長職官 氏

名 ⑧

(昭和十八年八月十四日海軍公報(部内限))

1021

公務罹病者名簿

病名	年發月日病	年轉月日歸	罹病地	所轄	官(職)	氏名	電報符文ハ入籍番號

(備考)

- 一 轉歸ノ欄ニハ「年月日全治」「年月日何々ノ爲止療」ノ如ク記載スルコト
- 二 罹病地名ハ地名又ハ島名ヲ的確ニ記載スルコト

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年八月十四日 (土)
海軍大臣官房

○令 達

官房人第二〇〇二號

大東亞戰爭中下士官及兵長ノ増俸ニ關スル特例ノ件左ノ通定ム

本令ニ規定スル以外ノ事項ニ關シテハ海軍武官増俸規則及昭和四年達第五十號(海軍兵長ノ増俸ニ關スル件)ニ依ルモノトス

昭和十八年八月十三日

海 軍 大 臣

第一條 下士官及兵長ノ増俸ハ每級俸候補員數ノ範圍内ニ於テ所轄長之ヲ行フ

第二條 所轄長ハ五月一日又ハ十一月一日所屬(一日ニ所屬ヲ變更シタル者ハ舊所屬ニ依ル)ノ部下下士官及兵長ニ付銓衡ノ上別紙様式第一及第二ニ依リ増俸候補名簿ヲ調製シ所定期日ニ増俸ヲ行フベシ但シ増俸停年ヲ有スルモ増俸セシムベカラザル者ニ關シ

テハ海軍省人事局長ヲシテ別ニ通牒セシム

第三條 増俸候補名簿ニ登載シタル者其ノ所屬ヲ變更シタルトキハ舊所轄長ハ之ヲ其ノ名簿ヨリ除キ所要事項ヲ附シテ新所轄長ニ移牒シ新所轄長ハ増俸候補名簿ニ追加登載スベシ

第四條 増俸有資格者ニシテ轉勤旅行中又ハ行方不明其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ所定ノ増俸期日ニ増俸セシム得ザリシ者ハ之ヲ増俸候補名簿ニ追加登載シ所定期日ニ遡リ増俸スルコトヲ得

第五條 所轄長増俸ヲ行ヒタルトキハ別紙様式第一及第二ニ準ズル増俸者名簿ニ別紙様式第三ニ依リ増俸候補名簿不登載者調ヲ添ヘ速ニ在籍領守府司令長官ニ報告スベシ

前項ノ増俸者名簿ハ増俸候補名簿ノ寫ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六條 所轄長ハ其ノ部下下士官及兵長ニシテ増俸資格ヲ有スル者傷痍疾病ニ因リ危篤ニ陥リタルトキハ

海軍公報 (部内限) 號外

其ノ際特ニ増俸スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ其ノ旨速ニ在籍鎮守府司令長官ニ報告スベシ
(別紙様式三葉添)

○ 通 牒

人秘第一〇八號

昭和十八年八月十三日

内令規
要登載

海軍省人事局長

各所轄長殿

下士官及兵長ニシテ増俸停年ヲ有スルモ

増俸セシムベカラザル者ニ關スル件通牒

本年官房人第二〇〇二號ニ依ル下士官及兵長ノ増俸ニ

關スル特例ノ件中首題ノ件ニ關シテハ左記ニ依リ取扱

フモノト了知相成度

記

増俸停年ヲ有スルモ現級俸(兵長ニ在リテハ現職)中

刑罰ニ處セラレタル者ハ各一回ニ付左ノ標準ニ依リ増

俸ヲ延期ス

一 懲役及禁錮

二回

二 罰 (罰金、科料及拘
留ハ罰ニ準ズ)

一回

但シ公務上ノ過失及其ノ他
ノ情狀酌量スベキ者又ハ改悛
ノ情顯著ニシテ増俸スルヲ
至當ト認ムル者ハ延期セザ
ルコトヲ得

刑罰ニ處セラレザルモ勤務特ニ不良又ハ其ノ他ノ理由
ニ依リ増俸至當ナラズト認ムル者アルトキハ罰ニ準ズ

様式第一
番 號

年 月 日

(昭和十八年八月十四日海軍公報 (部内限) 號外)

1024

下士官増俸候補名簿

上等兵曹一級俸ニ増俸スベキ者 (現役)

所 轄 長

順次	現官任命年月日	現級俸給年月日	除算事項及 其ノ日數	増俸年	下士官初任年月日	特技章及卒業成績順位	現官中ノ刑罰	善行章	氏名	入籍番號

備考

- 一 本名簿ハ現役、服役延期及應召並ニ各官階及級俸ニ分チ各別紙ニ調製ス
- 二 現官中ノ刑罰、特技章及卒業成績順位欄ハ海軍武官任用進級取扱規則様式第四ニ準ジ記註スルモノトス
- 三 轉勤、死亡及其ノ他増俸セシムベカラザル事由ノ爲削除スベキ者ハ朱線ヲ劃シ其ノ理由ヲ欄外ニ附記スルモノトス

様式第二

番 號

年 月 日

(昭和十八年八月十四日海軍公報(部内限)號外)

1025

兵 增 俸 候 補 名 簿

水兵長特別俸ニ増俸スベキ者(現役)

所 轄 長

決 定 順 序	兵 長 進 級 年 月 日	除 算 事 項 及 其 日 數	停 增 俸 年 俸	特 技 章 及 卒 業 成 績 順 位	現 職 中 ノ 刑 罰	善 行 章	氏 名	入 籍 番 號

備 考

調製要領ハ下士官増俸候補名簿ニ準ズ

様式第三

(昭和十八年八月十四日海軍公報(部内限)號外)

年 月 日 調

應 名

1026

下士官(兵) 増俸候補名簿不登載者調(現役)

事由	由	現官(職) 任命年月日	現職俸 給與年月日	特技章	官(職)	現級俸	氏名	入籍番號
勤務ノ成績不良 (八、五、二威信失墜禁足十日)		一七平一	一七二一	高砲	上曹	三	何 某	横志水 一五六五
一八、一、一〇行方不明トナ リ候補名簿ヨリ削除		一七平一	一七二一	普信	上曹	三	何 某	横志水 一八五三
一八、二、五ヨリ行方不明中		一七二一	一七二一	丙操	一飛曹	二	何 某	横志飛 九二七五
父 看ノ護	十五日	一七二一	一七二一	普内火	上機曹	二	何 某	横志機 九五七二
二種入院(胸膜炎)四月七日		一七二一	一七二一	普經	二主曹	二	何 某	横志主 一二七五

備考

- 一 本調書ハ現役、服役延期及應召並ニ下士官及兵ニ分チ各別紙ニ調製ス
- 二 本調書ニハ増俸候補名簿調製期日ニ於テ増俸停年ニ達スベキ經過日數ナルモ刑罰其ノ他除算事項等ノ爲増俸資格ヲ有セザル者及増俸候補名簿ニ登載シタルモ増俸セシムベカラザル事由ヲ生ジ該名簿ヨリ除キタル者ヲ記載スルモノトス

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百六十七號

海軍大臣官房

昭和十八年八月十六日(月)

○令 達

官房軍機密第九四八號ノ三
陸海軍電波技術委員會規約別冊ノ通定ム

昭和十八年八月十二日

海軍大臣
陸軍大臣

内令提
委任状

(別冊)

陸海軍電波技術委員會規約

第一條 陸軍及海軍ニ於ケル電波兵器ノ研究、實驗等ニ關シ相互ニ協力援助シテ之ヲ推進シ電波兵器技術ノ躍進ヲ圖ル目的ヲ以テ陸海軍電波技術委員會(以下單ニ委員會ト稱ス)ヲ置ク

第二條 委員會ハ陸軍及海軍ニ於ケル電波兵器ノ研究、實驗、試作及審査並ニ生産移行等ニ關シ相互ニ協力援助スルヲ有效ナリト認メラルル案件ニ就キ審議スルモノトス

前項ノ審議ニ當リテハ各軍電波兵器ニ關スル機密事項ノ開陳ニ付特ニ制限ヲ設ケザルモノトス

第三條 委員會ニ於ケル審議決定事項ハ各軍ニ於テ速ニ之ヲ常務機關ニ移シ實行スル如ク措置スルモノトス

第四條 委員會ハ陸軍次官及海軍次官ヲ委員長トシ陸海軍大臣之ヲ主管ス

委員長ノ下ニ副委員長、委員、幹事長及幹事ヲ置ク前項ノ外特別委員ヲ置キ部外ノ學識經驗アル者ノ中ヨリ陸海軍大臣之ヲ依屬ス

第五條 委員長ハ會務ヲ總理ス

第六條 副委員長ハ委員長ヲ輔佐ス

第七條 委員及特別委員ハ議案ヲ審議ス

第八條 幹事長ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ニ關スル庶務ヲ統理シ且交互ニ委員會ヲ主催ス

第九條 幹事ハ幹事長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十條 委員長ハ議案審議上ノ必要ニ應ジ第四條ノ諸

海軍公報(部内限) 第四千四百六十七號

昭和十八年八月十六日

八五九

1027

員ノ一部其ノ他所要ノ者ヲ以テ臨時ニ小委員會ヲ組織スルコトヲ得

第十一條 委員會ノ編制別表ノ如シ

附則

陸海軍(除航空)技術委員會及陸海軍航空委員會規約
中本委員會規約ニ包含セラルベキ事項ハ當該委員會規約ヨリ之ヲ除外スルモノトス
(別表添)

官房軍第九一三號

大東亞戰爭中和蘭國及英國ヨリ捕獲セル汽船各一隻ヲ
雜役船ニ編入シ其ノ船種、船名、所屬等ヲ左ノ通定ム
昭和十八年八月十三日

海軍大臣

○通牒

船種	船名	所屬	別定數	記	事
海洋觀測船 (五百噸)	第四天海	水路部	臨時	大東亞戰爭捕獲船	
同 (二百三十噸)	第五天海	水路部 (第三氣 象隊供 用)	附屬	マリジャン(和蘭國)	
				同 プロキツジャン(英國)	

海人第二號ノ四七四

昭和十八年八月十四日

海軍省人事局長

各廳長殿

定例敍勳具申ニ關スル件通牒

定例敍勳具申ノ場合ハ當分ノ間左記ニ依リ勳章送付先
(留守宅家族等ニ送付ノ上處置セシムル場合ノ希望場
所)及本籍地名等ヲ記載ノコトニ取計相成度

記

一 勳章送付先
還納勳章發送元

敍勳具申書餘白又ハ別紙ニ勳章送付先及還納勳章發
送元ヲ記載ス

(例) 勳章送付先 何縣何郡何村何番地何某方

妻 何 某
還納勳章發送元 右 同

二 本籍地

敍勳履歷書ノ現住所ノ前ニ本籍地府縣名ヲ記載ス

(例) 本籍地 東京都

現住所 軍艦何

○ 辭令

陸海軍電波技術委員會幹事長ヲ命ス
海軍大佐 鈴木 光信

同 高 原 久 衛

同 北 川 金 光

同 海軍中佐 有 坂 馨 雄

同 長 井 弘 介

海軍技術大佐 伊 藤 庸 二

陸海軍電波技術委員會委員ヲ命ス

(各通) 海軍技術少佐 高 橋 修 一

海軍技術大尉 辻 田 稔 後 前

陸海軍電波技術委員會幹事ヲ命ス(陸海軍省)

海軍主計中尉 北 尻 豊 彦

第四海軍經理部サイパン出張所ニ要スル給與及其ノ

他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 服 部 誠 太 郎

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上支拂出納官 海軍省

經理局長)

○ 雜 款

○ 訂正

八月四日附公報(部内限)八二三頁辭令中「二月十九日假稱一號及二號携帶搬送電話裝置實驗委員長」トアルヲ「二月十九日官房艦機密第七七八號假稱一號及二號携帶搬送電話裝置實驗委員長」ニ、二月十九日假稱一號及二號携帶搬送電話裝置實驗委員長「トアルヲ「二月十九日官房艦機密第七七八號假稱一號及二號携帶搬送電話裝置實驗委員長」ニ孰モ訂正

○ 正誤

八月十日附公報(部内限)通牒欄軍需機密類第一二二號中「八月七日」ハ「八月九日」ノ誤

(別表)

長	員	委
海軍次官	陸軍次官	
長	員	委 副
電波研究部長	海軍技術研究所	多摩陸軍技術研究所研究部長

備考 一 審議ニハ本表ノ外所要ノ關係者ヲ參加セシムルコトヲ得
二 兼務委員ハ幹事長ノ兼務トス

事	幹	長 事 幹		員 委								
		軍海	軍陸	軍 海			軍 陸					
海軍技術研究所員 航空技術廠部員	多摩陸軍技術研究所員	海軍技術研究所部員	多摩陸軍技術研究所部員	海軍航空本部第四部第四課長 海軍航空技術研究所支部員 海軍航空技術廠部員	海軍艦政本部第三部部員	海軍省軍務局第一課長	軍令部部員	多摩陸軍技術研究所部員	陸軍航空本部總務課長	陸軍兵器行政本部總務部第三課長	參謀本部部員	陸軍省軍務局軍事課長
				(四内兼一務)	一			(四内兼一務)			一	

(昭和十八年八月十六日海軍公報(部内限))

海軍公報 (部内限) 第四百六十八號

海軍大臣官房

○令達

官房人機密第四一四號

昭和十七年官房機密第一四五四八號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十四日

海軍大臣

表中入校期日昭和十八年九月上旬以降ノ欄ヲ削ル

(昭和十七年十一月二十四日本欄参照)

官房人機密第四一四號

昭和二年勅令第三百八十一號ニ依リ同十六年八月二十日任用セラレタル海軍主計科士官ハ海軍將校相當官現役期間特例第五條竝ニ海軍武官服役令第三條第一項第一號ニ依リ當分ノ間服役期間ヲ延長ス

昭和十八年八月十四日

海軍大臣

官房設機密第一四八三號ノ二

昭和十八年官房設機密第一四八三號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十四日

海軍大臣

表中資材ノ項南西方面ノ部

第一臨時設營班

第三十六設營隊

ノ次ニ

第四十設營隊

ヲ加フ

第二百三十一設營隊

(参照)

官房設機密第一四八三號ハ特設設營隊及特設建築部ニ要スル人員及資材竝ニ特設建築部ノ工事費整理ニ關スル擔任區分ノ件ナリ(昭和十八年六月一日海軍公報(部内限)號外)

官房軍機密第九七五號

昭和十八年八月十五日

各鎮守府司令長官殿

海軍大臣

内令提
要登載

海軍公報(部内限) 第四百六十八號

昭和十八年八月十七日

八六三

練習艦艇配當ノ件改正ノ件訓令

昭和十七年官房機密第二九六五號別表中左ノ通改正ス
海軍水雷學校ノ項中「第六潜水隊」ノ下ニ「第一
號哨戒艇」ヲ加フ

(内令提要卷三、六〇頁参照)

○通牒

經監一第八號ノ一

昭和十八年八月十六日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

出而簿ノ保存期間ニ關スル件通牒

海軍工作廳工事費整理規則第二號書式ニ依ル出而簿ハ
從來二十年保存シ來リタルニ付關係各廳共簿冊逐年増
加シ收容保管ニ甚シク困難ヲ感シ居リタル處特ニ最近
ニ至リ急激増加ヲ來シタルヲ以テ之等累年ノ歴大ナル
帳簿ヲ保管スベキ格納庫ノ餘積ナク保存整理上極メテ
困難ナル實情ニ在ルヤニ思料セラルルニ付テハ之ガ保
存期間ハ當分ノ間各廳處務通則第二十四條第二類ノ規

定ニ拘ラズ五年ニ短縮スルコトニ定メラレ候條了知相
成度

○辭令

微用中自今年額千五百拾貳圓ヲ給シ部内限奏任官待
遇トス(海軍省)

海軍技術中將 福田 武夫

海軍科學技術審議會委員ヲ命ス(海軍省)

海軍大佐 植村 庭三

第二課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)

海軍主計中尉 石坂 一義

第三課勤務ヲ命ス(海軍省兵備局)

通信書記 柳 澤 甲

海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限判任官待
遇トス

第一課附ヲ命ス(海軍省)

海軍少佐 福田 宗正

第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

同 一ノ瀬 光清

海軍主計少尉 星谷 昌保
第二十七驅逐隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(元初支出官海軍省經理局長)

海軍主計中尉 三毛 一到
第二十一特別根據地隊ジャカルタ分遣隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス(元同)

○ 雜 款

○自動車發差ニ關スル件通知
當設立準備事務所ハ宮城縣宮城郡多賀城村在ニシテ當所仙臺驛間ハ約十二軒ノ距離アリ且ツ當事務所ニハ目下代燃車皆無ナル爲自今當方ニ出張セラルル向ニ對シテハ「ガソリン」節約ノ見地ヨリ仙臺驛ニ迎送用自動車發差致難キ場合有之ニ付可及的左記便ヲ利用ノコトニ取計ハレ度

記

一 宮城電氣鐵道利用ノ場合
宮電仙臺驛發〇五三五ヨリ約一七分毎ニ電車ノ便アリ
宮電仙臺驛——宮電多賀城約四〇分ヲ要ス

宮電多賀城驛——空A廠(假稱)徒歩ニテ約一五分

事前連絡アル向ニ對シテ宮電多賀城驛迄自動車ヲ發差ス

二「バス」利用ノ場合

仙臺驛發〇七〇〇ヨリ約一時間毎ニ「バス」ノ便アリ

仙臺驛——笠神(空A廠(假稱)前)約三〇分ヲ要ス
(空A廠(假稱)設立準備委員長)

○ 殘務整理

第二十一特別根據地隊ジャカルタ分遣隊分任出納官吏事務ハ七月三十一日限廢止ス
同隊ノ殘務整理ハ吳局氣付セ貳壹七參九主計長ニテ行フ
(第二十一特別根據地隊)

○本日普通公報發行セス

海軍公報 (部内限) 第四千四百六十九號

昭和十八年八月十八日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房設機密第二一五四號

左ノ各號ニ依リ施設系技術官ニ對シ築城施設術講習ヲ實施ス

所屬長官ハ第四號ノ講習員ヲ毎回開始前日迄ニ講習場所ニ派遣スベシ

昭和十八年八月十七日

海 軍 大 臣

一 講習科目

- (イ) 築城兵術一般
- (ロ) 築城施設及一般施設計畫法
- (ハ) 築城施設術
- (ニ) 機械化施設部隊指揮統率法及軍事教練
- (ホ) 施設機械及之ガ使用法
- (ヘ) 機械化施工法
- (ト) 施設關係事務一般

二 講習期間及場所

- 第一回 自八月二十三日 至九月五日
 - 第二回 自九月十日 至九月二十三日
 - 第三回 自十月一日 至十月十四日
- 廣濱市磯子區柴町小柴海軍用地(施設機械野外實驗場)

三 講習指導官及實施細目

館山海軍砲術學校教官ヲシテ一部科目(築城兵術一般)ヲ擔當セシムルノ外海軍施設本部長ノ定ムル所ニ依ル

四 講習員

- (イ) 講習員ハ概ネ技術大尉級以下ノ技術士官技師ヲ主トシ狀況ニ依リ一部將來幹部タリ得ル技手ヲ加フルコトトシ毎回ノ講習員ハ別ニ海軍施設本部長ヲシテ通牒セシム
- (ロ) 毎回ノ講習員概數

海軍公報(部内限) 第四千四百六十九號

昭和十八年八月十八日

八六七

1034

講習員	施設	建	築	部
派出元	本部	賀	須	吳
		保	佐	世
			舞	鶴
			大	湊
			鎮	海
			高	雄

第一回	七〇
第二回	五〇
第三回	九〇

備考 第三回講習員中ニハ施設系第二回武官轉官者中大尉級以下ヲ含ム

五 出張旅費 請求ヲ俟テ別途配付ス但シ講習員ノ旅費ハ昭和十八年官房經第七號ニ依ルモノトス

○通牒

官房軍第九〇七號ノ二
昭和十八年八月十五日

海軍省 副官

各鎮守府 副官
各警備府 副官
各艦隊 副官
海軍練習聯合航空總隊 副官

部外者航空機便乗ニ關スル件通牒

大正十二年官房第三七三九號ノ二通牒首題ノ件左記ノ
通改正セラレ候條了知相成度

記

- 一 鎮守府司令長官、警備府司令長官、艦隊司令長官及海軍練習聯合航空總隊司令官ハ必要ト認メタルトキハ航空隊所在地ニ於テ飛行スル部下航空隊ノ航空機ニ部外者ノ便乗ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ事後之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ
- 二 右以外ノ場合ニハ事由ヲ具シ豫メ海軍大臣ノ認許ヲ受クベシ

軍務一機密第六七六號

昭和十八年八月十七日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長
各艦裝員長 殿

新造艦整備ニ艦裝員側協力ノ件申進

首題ノ件ニ關シテハ從來共其ノ協力ニ依リ相當ノ實績ヲ擧ゲツツアル所ナルモ新造艦促進ノ要切ナルモノアル現下ノ情勢ニ鑑ミ艦裝員服務規程第一條及第六條ノ


主旨ヲ一層徹底ノ上之ガ整備ニ更ニ積極的協力方特ニ
 配慮相成度

○ 辭 令

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍軍醫少佐
横尾	福	上	一	寺	田	太	鈴	阿	池	小	川	倉	甲	乘	川
立	島	山	條	沢	口	田	木	南	田	堀	久	八	田	岡	幡
男	翠	重	真	健	實	秀	一	義	滿	益	保	研	義	憲	秋
		熙	助	一	夫	彦	彦	雄	次	之	夫	一	男	一	

(各通)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
板	白	福	大	齋	伊	島	河	三	角	新	戸	續	上	鎌	嶋	西	中	浦	田	岡
津	井	原	道	藤	崎	野	野	村	田	村	田	原	田	田	尾	西	西	島	村	村
清	春	平	廣	又	礫	亮	政	真	正	万	弘	師	梓	常	宗	真	哲	夫	武	雄
明	生	治	廣	三	郎	祐	德	雄	三	平	一	一	一	郎	之	二	夫	勉	勉	雄

海軍軍醫少佐 渡邊 昇	同 片山 循之	同 佐々木 輝紀	同 山路 正己	同 林 正義	同 木村 政良	同 天野 俊二	同 近藤 明	昭和十八年度海軍豫備學生採用身體検査臨時委員ヲ命ス	海軍中佐 遠山 安巳	船舶應急處理委員會副委員ヲ命ス	防備關係調査研究委員會第一分科會委員ヲ命ス（以上ハハ海軍省）	海軍中佐 庵原 貢	海軍武官任用委員ヲ命ス	海軍學生銓衡委員ヲ命ス	海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス	恩賜研學資金受賞者銓衡常置委員ヲ命ス	思想調査委員會委員ヲ命ス	海軍服制研究調査會委員ヲ命ス（ハハ同）
（各通）																		
海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定ス（ハハ海軍大臣）																		
第百二海軍經理部バリツクバン支部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス																		
右同分任出納官吏ヲ免ス（以上ハハ支出官 海軍省經理局長）																		
○ 雜 款																		
○正誤  八月十二日附公報（部内限）官房雷第一六七號中「運用長主管」ハ「航海長主管」ノ誤																		
○本日暗送公報第六號、第七號發行ス																		

海軍公報 (部内限) 第四千四百七十號

昭和十八年八月十九日(木)
海軍大臣官房

○ 通牒

契三第五號ノ一一八
昭和十八年八月十八日

海軍省經理局

關係各廳御中

徵備船運航上載貨積換移動等ヲ要スル場
合ノ運搬作業費處理ニ關スル件照會

海軍徵備船竝ニ海軍配當船舶運航ニ伴ヒ專ラ海軍ニ於ケル運航管理ノ必要上實施セル載貨ノ積換其ノ他ノ特別作業ニ要スル諸費用ハ海軍經費ヲ以テ處辨スルコトトシ全部海軍省經理局ニ於テ支拂フコトニ客年九月以降實施中ニシテ其ノ事務取扱要領ハ同年九月二十二日契三第五號ノ一四七ヲ以テ關係ノ向ニ文書通知濟ニ有之候然ルニ右ノ中海軍省配屬運送船舶ノミニ關スル細則的處理要領ヲ照會セル客年十月二十日海運第七〇號ガ十月二十二日附海軍公報ニ掲載サレタル爲却テ疑義ヲ生ジアルヤニ及聞候處本件ハ海軍省配屬運送船舶ニ

限ラズ海軍徵備船等全般ニ關シ實施中ニ有之候條了知相成度
追テ事務處理要領ハ更メテ關係ノ向ニ送付可致候

○ 辭令

第十海軍軍郵便所員ヲ免ス(註明海軍省)
事務員 山本 啓次

事務員 多喜 晟

第十三海軍軍郵便所員ヲ免ス(註明同)

遞信局技手 宮崎 徳北

同 川上 岩太

線路工員 開 才十

同 中谷 貞一

同 松岡 繁一

同 稻垣 重一

同 岩原 日郎

同 高杉 直市

海軍公報 (部内限) 第四千四百七十號 昭和十八年八月十九日

八七二

(各通)		線路工員	福本 繁男
同	同	榎 他右衛門	
同	同	松尾 義光	
同	同	狩野 徳治	
同	同	久保 作一	
同	同	大元 新平	
同	同	谷口 弘	
同	同	藤井 正	
同	同	國吉 一男	
同	同	小鹽 喜代三	
同	同	森 勇	
同	同	有田 喜三郎	
吳鎮守府附ヲ免ス		遞信局技手	島 久喜
同	同	成 富 信	
同	同	黒川 由雄	
同	同	上野 武	
同	同	村山 達治	
同	同	田中 義夫	
同	同	篠谷 金十郎	
同	同	藤 健 兒	
(各通)		同	岡田 良一
同	同	小 嶋 清	
同	同	上野 市之助	
同	同	秋山 高次郎	
同	同	松永 正記	
同	同	橋本 始	
同	同	日永田 次吉	
同	同	松原 悟	
同	同	米田 政芳	
同	同	前田 正雄	
同	同	末安 重雄	
同	同	山田 勝平	
同	同	吉川 正一	
同	同	岡山 鐵雄	
佐世保鎮守府附ヲ免ス(以上 ^六 同)		遞信局技師	山本 房太郎
吳鎮守府附ヲ免ス		同	清 田 茂
佐世保鎮守府附ヲ免ス(以上 ^七 同)		事務員	井上 聰幸
第四十一海軍軍郵便所員ヲ免ス(以上 ^七 同)			

第十海軍軍郵便所員ヲ命ス 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	事務員 大塚 藤雄
第十三海軍軍郵便所員ヲ命ス 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	同 板倉 功
第二十七海軍軍郵便所員ヲ命ス	通信書記 鈴木 留治 事務員 大熊 五郎
第十三海軍軍郵便所員ヲ命ス 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上ハ同)	通信事務官 永關 良雄 事務員 岡村 重雄
東京海軍通信隊附ヲ命ス(ハ同)	事務員 岡村 重雄
第四十一海軍軍郵便所員ヲ命ス 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	通信事務官 服部 敏三
第二十一海軍軍郵便所長ヲ命ス	事務員 大河 通泰
第二十一海軍軍郵便所員ヲ命ス 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	事務員 大河 通泰
第三十二海軍軍郵便所員ヲ命ス 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス	同 植野 多喜夫
第三十二海軍軍郵便所員ヲ免シ第二十一海軍軍郵便所員ヲ命ス(以上ハ同)	通信書記 相澤 主 主トシテ兼務廳ニ於テ服務スベシ(ハ東京軍法會議)
	東京軍法會議附兼高雄警備府軍法會議附海軍警査 川上 藤納
○ 懲 罰	

海軍公報(部内限)第四千四百七十號

昭和十八年八月十九日

八七三

○ 雜 款

○事務開始
伊號第百八十四潜水艦裝員事務所ハ八月十日横須賀海軍工廠内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
第四十七號驅潜艇裝員事務所ハ八月十二日撤去セリ

○本日普通公報發行セズ

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百七十一號

昭和十八年八月二十日(金)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第六八一號ノ二

昭和十八年官房機密第六八一號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

聯合特別陸戰隊司令部ノ次ニ左ノ如ク加フ

第十二航空艦隊司令部 第二海軍航空廠
部及同戰隊司令部

○ 通 牒

官房機密第一四五號ノ一二

昭和十八年八月十九日

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關ス

内令提
受登載

ル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中ニ「第二百二十一設營
隊」ウ壹參六「第六防空隊」ウ貳六貳「第七防空隊
ウ貳六參」第九防空隊」ウ貳六四「第十防空隊」ウ貳
六五」ヲ加フ

同(其ノ三)中ニ「第八防空隊」イ六九「第四十一
防空隊」イ七〇」ヲ加フ

艦本機密第一號二二二四

昭和十八年八月十九日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長 殿

災害防止ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ屢次注意ヲ喚起セラレ各部ニ於テ
モ充分ノ戒心ヲ拂ハレツツアル所ナルモ最近吳工廠其
他ニ於テ火藥火工兵器關係事故ノ頻發セルハ寔ニ遺憾
ニ堪ヘザル所ニシテ此ノ種事故ノ根絶ヲ期スベキハ戰

海軍公報(部内限) 第四千四百七十一號

昭和十八年八月二十日

八七五

1042

備即應上絶對必要ナルコト論ヲ俟タザル所ナルニ付火藥火工兵器類ノ取扱ニ關シテハ之ガ取扱規則ヲ嚴守スルノ他特ニ左記事項勵行ノ上災害防止ニ關シ萬遺憾ナキヲ期スルト共ニ事故發生時ノ被害局限ニ付善處方指導相成度

記

- 一 火藥火工兵器停滯量ノ極減
- 二 作業要領ノ嚴守
- 三 保安取締ニ對スル指導監督ノ嚴格ナル勵行

○ 辭令

臺北帝國大學附屬
農林專門部教授

古城 坤三

海南海軍特務部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三十日海軍省)

中橋 謹二

海南海軍特務部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

(各通)

四千參百八拾圓 平洋丸 機關長 川島 作次

參千五百四圓 平洋丸 船醫 石崎 規一

囑託(部内限委任官待遇)ヲ命シ報酬年額(各頭書

ノ通)ヲ給ス(以上三十日同)

金子 太門

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ南西方面艦隊「ボルネオ」民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(三十日同)

遞信局書記 福田 清

ニューギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三十日同)

高雄地方海軍運輸部囑託

樋口 政次

自今報酬年額千六百五拾圓ヲ給ス(三十日同)

毛利 常次郎

森口 喜之助

山村 正貞

飯盛 清次

石川 源二

麻生 義隆

後藤 龍雄

家永 英吉

第百一海軍燃料廠ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三十日同)

(各通)

九州帝國大學教授 森 周六
九州帝國大學助教授 平山 定克
九州帝國大學助手 藤井 義典

海軍省事務ヲ囑託ス(六十日同)

辛島 善次

築城海軍航空隊齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額七百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

鈴木 安雄

第一航空基地隊ニ於ケル齒科治療業務囑託ヲ解ク
(以上七十日同)

本田 親善

軍令部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ南東方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

内務事務官 安田 巖

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

田中 完三

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス

久保田幾之助

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任

官待遇トス(以上六十日同)

(各通)

河部 國太郎
岡田 豊日
伊藤 益二郎

ニューギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

野瀬 隆逸

マカツナル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千五百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

久野 三子

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上六十日同)

半井 勇三

海軍艦政本部ニ於ケル造船業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(六十日同)

石川 丈夫

第一海軍火藥廠ニ於ケル醫療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千七百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(六十日同)

造船委員會第一委員會委員ヲ命ス
海軍大佐 磯部 太郎

燃料政策調査委員會委員ヲ命ス
同 奥田 増藏

海軍服制研究調査會委員ヲ命ス
海軍主計大尉 増本 正典

兵食研究調査委員會委員ヲ命ス(以上ハ同)
臺灣總督府農業試驗所技師 葛野 淺太郎

海軍省軍需局ニ於ケル事務ヲ囑託ス
堀口 申作

第一海軍燃料廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額六百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍省軍需局ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
濱口 富三郎

第十一海軍航空廠兵器部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
益田 寛

海軍航空技術廠三重出張所ニ於ケル事務ヲ囑託ス
倉田 三代吉

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
多田 鉄男

(各通)
特設海軍燃料廠補給部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
大塚 祐十郎

第一海軍燃料廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス
吉田 博伸

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
八谷 徳三郎

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
星野 二郎吉

(各通)
第一南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
内海 信二

森田 文五
森口 信夫

緒方 豊喜

官待遇トス

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

石野 一雄

但シ報酬年額參千五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍艦政本部ニ於ケル造船業務ヲ囑託ス

トス

家 高 勳

但シ報酬年額千五百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上ハ同)

(各通)

高橋 勇五

海軍主計中尉 北尻 豊彦

橘 弘 作

第四海軍經理部サイバン出張所ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

海軍主計中尉 服部 誠太郎

雨宮 文太郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ同)支出官 海軍省 經理局長)

寺村 新治郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス

長 坂 肇

海軍省事務ヲ囑託ス

山田 秀三郎

海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

甲 藤 新

(各通)

志母谷 武

海軍艦政本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託シ部内限奏任

海軍公報(部内限)第四千四百七十一號

昭和十八年八月二十日

八七九

(部) 内 (限)

海軍公報

(部内限) 第四千四百七十二號

昭和十八年八月二十一日(土)

海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ五
昭和十四年海軍省告示第二十號ノ二中「第一遣支艦隊、」ヲ削ル

昭和十八年八月二十日

海軍大臣

(参照) 昭和十四年海軍省告示第二十號ノ二ハ第一、第二遣支艦隊ニ軍法會議ヲ置クノ件ナリ(昭和十四年十一月十五日海軍公報(部内限))

海軍省告示第一號ノ六
支那方面艦隊軍法會議ヲ第一遣支艦隊軍法會議ノ後繼軍法會議ニ指定ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣

○令達

官房軍第九三四號

昭和十七年官房第四六八七號昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依ル海軍監獄ノ所屬、名稱及位置ヲ定ムル件中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣

内令撰
要登載

第一遣支艦隊 第三海軍刑務所 漢口 ヲ削ル

(昭和十七年八月一日海軍公報(部内限)参照)

官房軍第九三五號

昭和十七年官房第四六八八號昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依リ設置セラレタル海軍監獄ノ職員ヲ定ムル件中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣

内令撰
要登載

表中 第一海軍刑務所 一人 四人 十八人

海軍公報(部内限) 第四千四百七十二號

昭和十八年八月二十一日

八八一

第一海軍刑務所	一人	五人	二十三人
第三海軍刑務所	一人	五人	

（昭和十七年八月一日海軍公報（部内限）参照）

官房經機密第五二〇號

當分ノ間ビスマルク諸島、ソロモン諸島、東部ニューギニア等ニ於テハ官房經機密第一八五號ノ規定ニ拘ラズ本邦通貨ヲ使用スルコトヲ得
本件取扱等ノ細項ニ關シテハ海軍省經理局長ヲシテ別ニ通牒セシム

附則

本規定ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和十八年八月十九日

海軍大臣

（参照）官房經機密第一八五號ハ南方作戦地域ニ於テハ南發券ヲ使用スベキ件ナリ（昭和十八年四月八日海軍公報（部内限））

官房備機密第二五五號

高雄警備府附タル臺灣海軍燃料廠（假稱）建設委員長

ハ八月一日以降開應迄海軍燃料廠長ニ準ジ設立準備ニ必要ナル雇員、傭人及工員ヲ使用スルコトヲ得
昭和十八年八月二十日

海軍大臣

官房艦機密第四二四五號

海軍ニ於テ押收中ノ中華民國ニ於ケル造船所、工廠等ノ管理、監督、工事、検査等ニ關シ左ノ通定ム

昭和十八年八月二十日

海軍大臣

第一條 造船所、工廠等ノ所管及經營ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

- 一 上海方面ニ於ケル造船所
支那方面艦隊司令長官ノ所管トシ三菱重工業株式會社ニ委託經營セシム
- 二 青島方面ニ於ケル工廠等
支那方面艦隊司令長官ノ所管トシ浦賀船渠株式會社ニ委託經營セシム
- 三 香港方面ニ於ケル造船所
第二遣支艦隊司令長官ノ所管トシ三井造船株式會社（香港造船所）及株式會社福大公司（南了造船

所)ニ委託經營セシム

四 經營ニ關シテハ海軍ニ於テ監督、指導ヲ行フモノトシ現地ニ於ケル監督、指導者ハ上海及青島方面ニ在リテハ第一海軍工作部長、香港方面ニ在リテハ第二海軍工作部長トス

第二條 第一海軍工作部長又ハ第二海軍工作部長ハ艦船部隊ノ長ヨリノ請求工事(入渠ヲ含ム)中造船、造機關係工事ハ成ルベク左ノ各號ノ區分ニ依リ之ヲ部外請負ニ付スルモノトス

一 上海方面

三菱重工業株式會社

二 青島方面

浦賀船渠株式會社

三 香港方面

三井造船株式會社

株式會社福大公司

海軍工作部長ハ前項ノ請求工事中重要ナルモノニ付テハ遲滯ナク其ノ旨所屬長官及本籍鎮守府司令長官ニ之ヲ報告スルモノトス

第三條 第一海軍工作部長及第二海軍工作部長ハ工事處理ニ關シ相互ニ連絡スルモノトス

第四條 經營委託ヲ受ケタル造船所等ニ於テハ海軍工事ノミヲ施行セシムルモノトシ餘力アル場合ニ限り第一海軍工作部長又ハ第二海軍工作部長ノ承認ヲ得テ海軍工事以外ノ工事ヲ施行スル如ク指導スルモノトス

附則

昭和十三年官房機密第六九四一號ハ之ヲ廢止ス

○通牒

兵備四第一二四號

昭和十八年八月二十日

海軍省兵備局長
海軍省醫務局長

關係各廳長殿

海軍ニ於ケル健民修鍊實施ニ關スル件申進

今般客年八月閣議決定ノ結核對策要綱ニ基キ虛弱者ニ對スル措置トシテ國民體力法第十一條ノ規定ニ準據シ健民修鍊所ヲ設置シ健民修鍊ヲ實施スルコトト相成候處海軍ニ於テハ國家當面ノ急務タル生産增強ニ支障ヲ來サザル範圍ニ於テ概ネ左記ニ依リ實施ノコトニ取計相成度

記

- 一 筋骨薄弱者、結核要注意者ノ別ニ依リ夫々施設ヲ分チ修鍊所ニ入所セシメ本人ノ體力ノ現狀ヲ詳細ニ調査シ之ニ即應シテ適正ナル修鍊ヲ施スコトトシ修鍊ニ當リテハ一定ノ規律ノ下ニ筋骨薄弱者ニ對シテハ原則トシテ修鍊期間中引續キ勤勞ニ服シツツ體鍊ニ、結核要注意者ニ對シテハ休養ニ重キヲ置キ精神修養及保健ニ關スル講話、健全慰樂ヲ適宜按配スルコト但シ結核發病ノ虞アル者ニ對シテハ就業時間又ハ業務ノ變更ヲ圖リツツ前者ニ準ジ服務スルモノトス
- 二 健民修鍊所一ヶ所一期間ノ入所人員ハ凡ソ五十人以上トスルコト
- 三 健民修鍊所ニ於ケル一回ノ修鍊期間ハ概ネ二ヶ月トスルコト但シ本人ノ體力ノ狀況、修鍊ノ成績等ニ依リ期間ノ伸縮ヲ爲シ得ルコト
- 四 健民修鍊所ノ施設ニ付テハ出來得ル限リ既存施設ヲ利用ニ努ムベキモノトスルモ已ムヲ得ザル場合ハ借上ニ依ルモノトス但シ該當者少ク獨立シテ之ガ設置困難ナル場合ニハ協同シテ設置スルモノトス
- 五 健民修鍊所ニハ管理指導ニ當ル責任者ヲ定メ指導

醫、生活指導員其ノ他必要ニ應ジ榮養指導員、保健婦等ヲ置クコト

六 健民修鍊ニ要スル經費ハ別途海軍省經理局長ノ通牒ニ依リ處理スルモノトス

七 各廳長ハ修鍊終了後實施ノ概要、成果及所見ヲ海軍省兵備局長及同醫務局長ニ通報スルコト

經豫機密第三號ノ七九

昭和十八年八月十九日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

南東方面ニ於ケル使用通貨ニ關スル件通牒

官房經機密第五二〇號ニ依ル首題ノ件ハ主トシテ現地作戰部隊等ガ異種通貨處理上ノ煩ヲ避クル趣旨ニ基キ改訂セラレタルモノニ付之ガ取扱等ハ左記ニ依ル義ト了知相成度

記

- 一 當分ノ間磅表示南發券ヲ併用シ差支ナキモ現地日本銀行代理店ニ於ケル本邦通貨ノ準備狀況ニ應ジ保中有中ノ南發券ハ成ルベク本邦通貨ト交換スルコト
- 二 艦船部隊等ニ於ケル新規經費ノ受入、進出ノ際ノ準備等ハ成ルベク本邦通貨ニ依ルコト

三 各個人ノ所持スル南發券ハ希望ニ依リ日本銀行代理店ニ於テ本邦通貨ト交換シ得ルコト
 四 現地流通ノ在來通貨ハ前各號ニ依リ本邦通貨ト交換シ得ルコト
 五 現地以外ノ地域ニ於ケル磅表示南發券ト本邦通貨トノ交換取扱ハ從前通ナルコト

○ 辭 令

神谷 弘道
 香港方面特別根據地隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス
 但シ報酬月額八拾圓ヲ給シ部内限判任官待遇トス
 (六期海軍省)

特設海軍燃料廠
 補給部徴用員
 前田 一雄

(各通)
 同 一宮 貞夫
 同 野澤 盛雄
 同 飯塚 正雄
 同 張谷 壽雄

第一百海軍燃料廠ニ配屬ス(六期同)
 第十四設營隊徴用員 千葉 專治
 佐世保海軍建築部ニ配屬ス

(各通) 第一百二海軍燃料廠徴用員 徳久 寛
 同 西澤 善雄
 兼特設海軍燃料廠補給部ニ配屬ス

(各通) 第三十設營隊徴用員 豊村 清
 同 仁尾 博

大湊海軍建築部ニ配屬ス(以上六期同)

遞信技師 庄司 新治

第二南遣艦隊司令部附ヲ免シ南西方面海軍民政府附ヲ命ス(六期同)
 海軍中佐 池上 二男

陸海軍航空委員會委員(幹事)ヲ命ス

防備關係調査研究委員會第一分科會委員ヲ命ス(六期同)
 軍令部出仕海軍中佐 阿金 一夫

第一部第十二課勤務ヲ命ス(六期軍令部)

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更
 第十七驅逐隊司令ハ八月六日司令驅逐艦ヲ濱風ニ變更セリ

海軍公報(部内限)第四百四百七十二號

昭和十八年八月二十一日

八八五

○司令潜水艦變更
第十五潜水隊司令ハ八月十一日司令潜水艦ヲ伊號第三十二潜水艦ニ變更セリ

○試験問題發送

第二十五期高等科信號術
第四期高等科氣象術
第二十二期高等科運用術
練習生採用試験問題
右八月十六日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向
ハ海軍航海學校ニ至急通知相成度

記

一 單獨試験施行豫定ノ各部ニハ直送
二 聯合試験用ノモノハ各海軍人事務部及警備府宛送付
三 聯合試験參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試験參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試験用
若干部各海軍人事務部宛送付シ置ケリ
(海軍航海學校)

○各種練習生採用試験問題發送ノ件照會
本艇任務行動(單獨行動)上聯合試験參加不能ニ付自
今各種練習生採用試験問題一部宛直送相成度
(第三十六號哨戒艇)

○赴任先、轉任先等ニ關スル件照會
當隊雷爆關係員ハ横須賀海軍航空隊内當隊横須賀派遣

隊ニ於テ教育實施中ニ付練習生ハ勿論教官教員(定員)
ニシテ雷爆關係ト認メラルル者ハ直接横須賀派遣隊ニ
赴任(轉勤)セシメラレ度
尙雷爆關係書類ヲ本隊ニ送付セラルル際ハ同時ニ寫
一通横須賀派遣隊ニモ送付サルル如ク御取計ヲ得度
(洲ノ崎海軍航空隊)

○選修學生入校期日
來九月十五日任命セラルベキ本校第二十四期選修學生
ハ同月二十二日(水)ヨリ授業開始ノ豫定ニ付其ノ前
日迄ニ着校セシメラレ度
(海軍機關學校)

○事務開始
伊號第四十二潜水艦艦裝員事務所ハ八月十四日ヨリ吳
海軍工廠内ニ於テ事務ヲ開始セリ
電話吳工廠 三七五九番

○事務所移轉
佐世保海軍軍需部内ニ設置ノ佐鎮管下航空施設準備員
事務所ハ八月十五日鹿兒島海軍航空隊内ニ移轉セリ
岡崎航空基地(假稱)設立準備委員事務所ハ八月一日
愛知縣碧海郡矢作町横須賀海軍建築部岡崎工事事務所
内ニ移轉セリ

海軍公報 (部内限) 第四千四百七十三號

昭和十八年八月二十三日(月)
海軍大臣官房

○令 達

官房備第二〇八號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正

昭和十八年八月二十日

内令規
要登載

海軍大臣

表中第十一海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任
七人 判任」ヲ「専任 九人 判任」ニ改ム
「専任 十二人 判任」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナ
リ(昭和十七年十月六日本欄)

官房人第二一〇〇號

豫備員候補者海軍ニ於ケル同教程修業中演習其ノ他ノ
公務ノ爲自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ傷痕ヲ
受ケ又ハ疾病ニ罹リ危篤ニ陥リタルトキハ其ノ際海軍
豫備學生規則、海軍豫備生徒規則、海軍豫備練習生規
則又ハ海軍豫備練習生規則ノ規定ニ拘ラズ特ニ之ヲ線

上卒業(修了)セシムルコトヲ得

昭和十七年七月一日以後危篤ニ陥リタル者ニシテ前項
ノ規定ニ該當シタルモノハ其ノ死歿ノ後ト雖モ特ニ危
篤ニ陥リタル時ニ遡リテ之ヲ卒業(修了)シタルモノ
ト看做スコトヲ得

前二項ノ規定ハ兵役法施行令第六條第二項前段ノ規定
ニ依リ現役ノ實役ニ就役中ノ豫備員候補者ニシテ公務
ノ爲自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ傷痕ヲ受ケ
又ハ疾病ニ罹リ危篤ニ陥リタルモノニモ亦之ヲ準用ス
本令ハ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣

官房經第九〇五號

當分ノ間北海道ニ在ル海軍工作廳其ノ他ノ各部ニ勤務
スル内地人タル工員ニハ別表ニ依リ増給ヲ支給ス
本令ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年八月二十一日

海軍公報 (部内限) 第四千四百七十三號 昭和十八年八月二十三日

八八七

1053

海軍大臣

○雜款

(別表)

在勤増給

區分	日額
工長	十三錢
工手、職手	七錢
其ノ他	六錢

備考

本表ノ増給ノ支給區分ハ海軍工員規則第七十一條ノ増給ノ例ニ依ル

○辭令

高雄州警部補 小蒲 伊助

海南警備府附ヲ免ス(三十五)海軍省)

海軍中佐 柴田 音吉

第一勤務ヲ命ス(三十四)海軍省兵備局)

○本日普通公報發行セズ